

陽だまり

vol.8

2010.3月発行

財団法人 丹後中央病院

病院長 西島直城

〒627-8555 京都府京丹後市峰山町杉谷158-1
TEL 0772(62)0791 <http://www.tangohp.com>

自立



新年早々、一変して真っ白な雪景色に太陽が映え、今年の丹後中央病院門出を祝しているようでした。新しく購入した雪除機が深夜から運転しました。

西館新館竣工

過日、当院の50床増床に伴う西館の竣工式が盛大に執り行われました。

当院は、3月1日に210床の急性期回復期病院となりました。建築に関わられた設計事務所、建築会社には大変なご尽力をいただきました。周りを病棟で囲まれているため、機材をクレーンで運び入れなければならない、大変狭い敷地での工事となってしまいました。しかし、労災事故一つなく、無事竣工の日を迎えました。厚く敬意と御礼を申し上げます。また、西館は大変強固な耐震構造となっており、この京都府北部ではどこにもないほどの救急室が整備されています。消化器科をセンター化し、胃カメラ、大腸ファイバー検査の設備を整備しました。粘膜癌や胆石症などは、これらカメラで処置できるようになっています。

この50床増床には府からの条件として、小児科・産科についてはやってはならないという制約が盛り込まれました。しかし、それから2年が経過しますと、総務省からは小児科・産科をもやりなさい、と強い要請があり、やはり当院が小児科・産科・脳外科を新設しなければならないように命を受けております。

これに伴って、一昨年は20人、去年は76人の当院の職員数（3月1日現在381人）の増員を行ってまいりました。

文化の癒合

6世紀から8世紀にかけてイスラム教がイベリア半島を占領しました。しかし、ピレネー山脈で732年ツールポワティエの戦いをもって、それ以上のイスラム教のヨーロッパ侵攻は食い止められました。その後、次第にキリスト教勢力が盛り返し、500～600年かかって、今のスペイン・ポルトガル地域のイスラム教は、次第に追い詰められました。コルドバ、そして最後にはグラナダへと追い詰められます。最後のグラナダ陥落（1492年）までには、イスラム教とキリスト教は癒合しました。その代表建築物として、アルハンブラ宮殿があります。アルハンブラ宮殿のモスクの中にキリスト像のある教会もあります。イスラム教もかつてのローマ帝国の水道の整備など、ヨーロッパからの異文明・異文化を取り入れました。ギター曲で有名な「アルハンブラの思い出」はそのような異文化の癒合を知っている者にとっては、いっそう哀愁を込めて鑑賞できると思います。

当院も、医療技術者の技術向上の教育と、いまひとつは、職員の文



(写真：アルハンブラ宮殿)

化の融合をスローガンに内部の教育を行ってきました。丹後中央病院全員に帰属意識を持ってもらい、“和して同ぜず”をお願いしました。当院の大多数は新しくUターン等で引っ越してきた新しい職員であり、7～8年前からの従業員は半分を満たしません。他府県から来た方々には当地の異文化にはなかなか融合できないものがあります。当地の方々が譲歩癒合の努力をし、スポーツなどを一緒にやって和む必要があります。新しく赴任した方々が、当地に馴染むというのではなく、当地の方々が彼らに馴染むよう癒合を図りました。馴染み過ぎて、院内で結婚する方が急速に増えつつあります。

理想は高くやることは毎日雑巾がけ

丹後中央病院は、急性期医療から回復期リハビリまでを担います。職員は皆カツオです。カツオは、療養型のヒラメと違って、常に進歩前進が要求されます、留まることは許されません。ヒラメの肉は白いですが、カツオの筋は赤く持続的エネルギーを必要とするため、筋内にミトコンドリア酵素をたくさん持っています。イルカに毎日300キロ追い掛けられても生き延びます。職員皆が理想を求めて、高いレベルの病院を目標に頑張っています。その意気込み・決心は、“奥山の馬酔木（あせび・あしび）の花の 今盛りなりけり”と頑張っています。まずは人の心から意識を改革することです。

竣工式にて 院長挨拶〈2月27日〉

やわらかに柳あおめる北上の

岸辺目に見ゆ 泣けとごとくに

岩手県が育んだ歌人 啄木ですが、まず函館に渡ります。

東海の小島の磯の白砂に

われ泣きぬれて蟹とたはむる

ここからは望郷の念、故郷を大切にという話に一貫させていただきます。

今、私は大変感慨無量で感傷深く過去を振り返っています。私が当地に赴任して早7年、院長に就任して5年が経とうとしております。院長に就任すると、すぐに京都府庁に出向きました。そこで、京都府北部の救急の現状と急性期病棟が大変、不足していることを京都府庁において関係各位に陳情をする機会を与えていただきました。それから4年の歳月をもって、本日の竣工式を迎えることができました。実に長い行程でした。

皆さんの心をつにするには、スローガンが要ります。西館の竣工の日をローマに例えて、【全ての道はローマに通ずる】【ローマは一日にして成らず】と位置付けました。ハザードマップで間人のお墓の次に当院の裏山が危険視されました。すでに間人の墓は崩れました。そこで、裏山は整備し、約70台の駐車場を造りました。これには、由良海岸の玄武岩が使用されました。保育所、看護寮を整備し、この2月、かつての裁判所跡に職員寮マンション「トワイライト赤坂」を造りました。【全ての道はローマに通ずる】の一環でした。リハビリスタッフの増員45名。ドクターや薬剤師やナースの大幅増員。そして、将来の事務方幹部候補生の大幅増員を図りました。この2年間は、これらの方々の教育に膨大な力と資金を注ぎました。京大病院とたすき

財団法人 丹後中央



掛けの研修指定病院になり、毎年、40数名の学生や研修医を引き受け、卒前卒後教育に力を入れてきました。看護部門も京大病院と交換できる体制を図り、教育水準の高さにおいては、どこに出しても遜色のないように医療スタッフは揃いました。当院には、京大臨床教授3名、準教授1名がおります。看護部長は京大第一臨床講堂で講義しました。先日新聞等で報じられたように、リウマチ治療は丹後中央病院は京都府下で2位、人工関節は7位、脊椎は5位です。

また、消化器内科の胃カメラによるERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）、CF（大腸内視鏡）による検査ならびに粘膜癌や胆嚢の治療数も目覚ましい成長を遂げ、外科のラパ手術（お腹を開けない手術）も急増し、消化器センター化してきました。西は鳥取からあるいは城崎、出石、日高、東は福井、小浜、滋賀県からも多数の患者さんが見え、疾病を資源と例えるなら、かつてない資源の逆輸入が起こっております。



日本経済はまだまだ低迷を続け、財政難は極めて深刻な状態にあります。次は必ずや、消費税は増税の方向に進み、内需はもっと冷え込むでしょう。その苦難を乗り越えなければ日本国は存続しません。

しかし、何も心配は要りません。この峰山が誇る作曲家、田村しげるさんの曲に、あの「白い花の咲く頃」があります。あの頃の音楽は気持ちを奮い立たせるものがあります。この歌を聴くと、日本がすべてのものを失ってしまった昭和20年代が思い出されます。その頃の傑作「モンテンパの歌」は素晴らしいです。1953年7月22日、横浜の港に溢れんばかりの人々が集まり、日本中がひっくり返りました。“ああ、モンテンパの夜は更けて”とフィリピンのモンテンパの刑務所で渡辺はま子さんが謡うと、望郷の念が込み上げた一千人の戦犯の大合唱となりました、この歌は二人の戦犯が作詞作曲しました。フィリピンのキリノ大統領は、ただちに死刑囚を含む全員を釈放しました。ちなみに、キリノ大統領は妻子を日本人に殺されています。

日本がすべてを失ったあの頃の貧困さに比べれば、今の苦難なんか比較に及びません。皆が無駄のないように、税金の垂れ流しがないように頑張れば、何も心配は要りません。

当院は、昭和16年、真珠湾攻撃の年に、加悦地区、野田川、伊根、宮津地区を含めた地元の住民が、惻隱の情を持って自発的に建立しました。その頃は、野田川にも有床の診療所があり、間人など各方面に診療所が建てられ、この広い北丹に限なく往診がなされていました。弥栄に診療所が出来たのは、昭和23年です。1995年（平成13年）阪神大震災の年に介護保険が始まると、財政難ゆえに医療もどん底に陥りました。

しかし、病院が地域住民にもたらす経済効果は、145%と試算されております。つまり、病院が100億の医業収入を上げると、145億の経済効果を生み出すことになります。現在、他府県から来られた方々のご家族は、必ず当地の旅館に泊まり、当院でこの地方からドッグを受けられた方々は、間人や網野でカニを食べていただくことになっております。

他府県から採用された方々は、新しくできた職員住宅「トワイライト赤坂」に入っていただきました。住民税など地方税は、また大きく市の財政を潤します。

今後とも 暖かいご支援、御鞭撻を衷心より厚く厚くお願いいたします。

病院長 西 島 直 城



新棟完成

新棟の竣工式が行われました！！

平成22年2月27日(土)、研修講堂「ふたばホール」において新棟の竣工式が執り行われました。式典では、新棟の紹介、理事長による式辞、病院長の挨拶、来賓のご挨拶、祝電披露があり、全員で「ふるさと」と「白い花の咲く頃」を合唱しました。たくさんの来賓をお迎えし、完成を祝うとともに更なる発展を願い、盛大な竣工式となりました。式典後には、新棟四階食堂にて祝賀懇親会が和やかに開催されました。



新棟紹介の様子



辻阪乙絲子先生のピアノ伴奏による合唱



病院長の挨拶

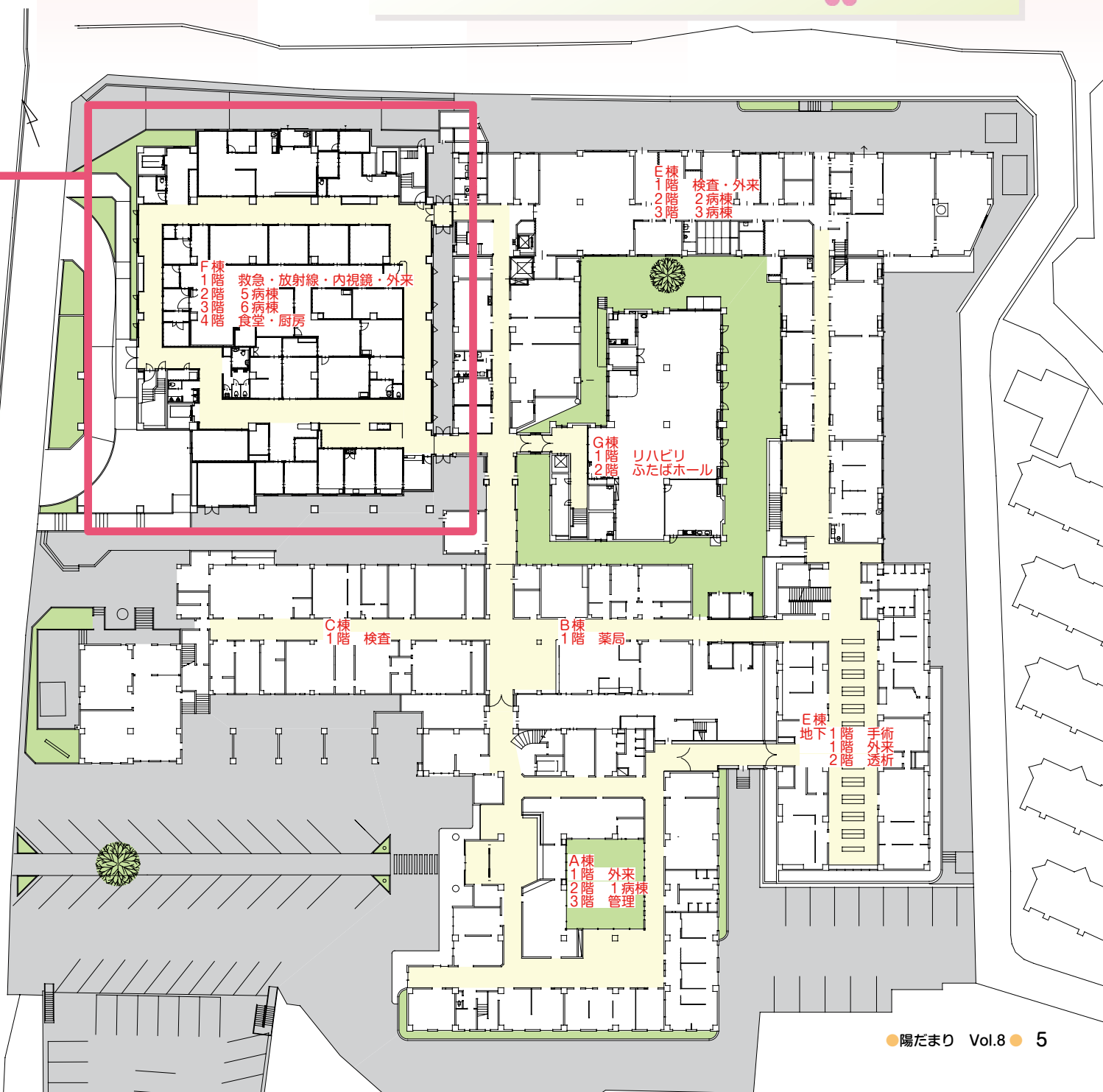
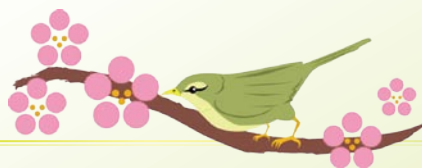
祝賀懇親会（新棟四階食堂）

- 一. 開会
- 一. 式辞
- 一. 挨拶
- 一. 感謝状贈呈
- 一. 来賓祝辞
- 一. 来賓紹介
- 一. 祝電披露
- 一. 一同合唱
(ふるさと・白い花の咲く頃)
- 一. 閉会

式典

〈式次第〉

五十床増床増築棟竣工式典



新棟が完成しました！！

いよいよ3月から新棟が動き出します！
今日は、1階から4階まで私のご案内します。
いきますよ～❤️



一度に最大6人まで点滴
等が可能な救急観察室

将来の機器入れ替えに
対応する大型搬入口



オストメイト、ベビーチェア、
ベビーシートを備えた多目的トイレ

多目的トイレ



寒い日でも24時間中で
待つことができる
夜間受付（風除室2）



救急搬入口



救急室（2つの処置ベッドを備えています）

スタッフの迅速な動きを可能
にする集中操作ホール



X線撮影室内側の集中操作ホール

廊下と雰囲気とを共有しつつ、
緩やかに囲われた中待合



新棟入り口

本館より



一般X線撮影室3室

1階には、院長外来ほか
整形外科外来、救急室、放射
線部門（MRI、CT、マンモ
グラフィー等）、内視鏡室など
があります。

※E棟1Fの従来の
整形外科外来は
そのまま使用します。



2F



談話室

ポータブルトイレが丸ごと洗える特注大型パン

将来そのまま2床室として使える設備を備えた1床室

左右マヒによって使い分け可能なトイレ (2、3F共通)

透析患者にも対応可能な個室



全ての病室入口が見渡せるスタッフカウンター (2、3F共通)

全ての病室で1床あたり8㎡の広さを確保 (2、3F共通)



一般食堂より峰山市街眺望

峰山市街が一望できる開放感あふれる食堂

2階は5病棟になります。この病棟は超急性期病棟です。



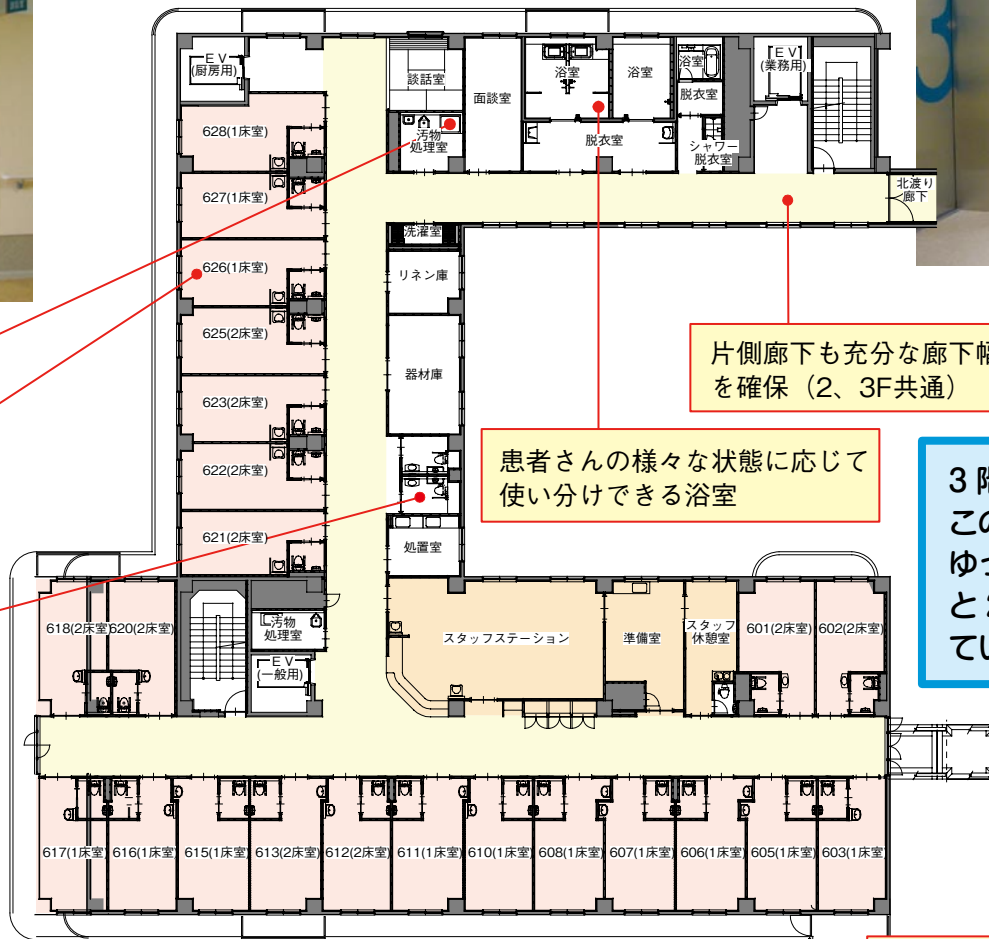
グリーンを基調とした5病棟



四季の花が楽しめる屋上ガーデン



ベージュを基調とした6病棟



片側廊下も十分な廊下幅 (約2.25m) を確保 (2、3F共通)

患者さんの様々な状態に応じて使い分けできる浴室

3階は6病棟です。この病棟のお部屋はゆったりとした個室と2床室のみになっています。



3F

将来350床程度まで対応可能な十分な広さの電化厨房



350床に対応可能な電化厨房

最上階の4階は、アメニティーホールとして、患者様や職員の食堂を設けました。入院患者様の厨房もIH機器を採用し、近代化されています。



4F

ユニットバス、ウォシュレットを備えた当直室



当院の医師です。

日々、安心・信頼・良質の医療を
基本理念として頑張っています。

整形外科



整形外科（病院長）
西島直城 にしじま なおき

神経外科、脊椎外科、上肢・手の外科、切断指肢再接合、人工関節、複合組織移植、微小血管外科、マイクロサージャリー、腕神経叢障害、根引き抜き損傷ほか



整形外科部長
門川克彦 かどかわ かつひこ

脊椎外科、外傷、人工関節ほか



整形外科医師
澤井誠司 さわい せいじ

整形外科一般
形成外科一般



整形外科主任部長
鈴木玄一郎 すずき げんいちろう

外傷、関節鏡、スポーツ障害、
脊椎外科、人工関節ほか



整形外科医師
西川玲子 にしかわ れいこ

整形外科一般、外傷ほか

総合診療科



総合診療科（病院長代行）
西村一郎 にしむら いちろう

生活習慣病（高血圧症・糖尿病・脂質代謝異常）、消化器病一般、
肛門外科、総合診療一般



私たちが
担当しています!!

内科



循環器科（副院長）
大谷秀夫 おおたに ひでお

循環器科（心臓・血管）、高血圧、
動脈硬化、高脂血症



内科部長
上古直人 じょうこ なおと

消化器、一般内科

外科

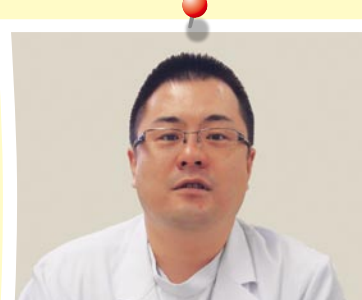


外科（副院長）
藤田 眞一 ふじた しんいち
消化器外科、外科一般



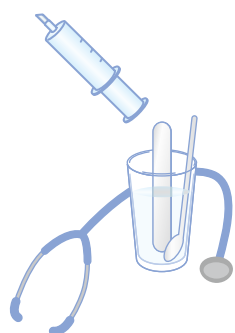
外科主任部長
庭野 元孝 にわの もとたか
一般外科、消化器外科、
腹部血管造影、緩和医療

泌尿器科



泌尿器科医長
西島 誠聡 にしじま なりあき
泌尿器科一般

放射線科



放射線科（副院長）
播岡 敏男 はりおか としお
放射線画像診断

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科（副院長）
田中 寛 たなか ひろし
神経耳科、鼻疾患一般

眼科



内科主任部長
今井 忠彦 いまい ただひこ
神経内科、循環器科



内科主任部長
立松 充好 たてまつ みつよし
老年病学、腎臓病、膠原病・リウマチ、
透析医療



眼科医長
深沢 伸一 ふかざわ しんいち
眼科全般

リハビリテーション科



内科部長
中路 正裕 なかじ まさひろ
消化器、一般内科



リハビリテーション科医師
川戸 明広 かわと あきひろ
整形外科一般、リハビリテーション



回復期リハビリテーション病棟部長
上田 善規 うえた よしのり
消化器外科、リハビリテーション

湿布薬の上手な使い方

湿布薬は大きく分けて比較的厚い「パップ剤」とうすいフィルム状の「テープ剤」の2種類に分類されます。



◆特徴◆

① **パップ剤**は白いフェルト布に有効成分が付いたタイプで、水分を多く含み、水分が蒸発する際に熱を奪うため冷却能力に優れています。

水の濡れを利用した粘着によるため肌にやさしいといえますが、その分はがれやすいです。

また、【温感タイプ】と【冷感タイプ】があり、温感タイプはトウガラシエキスを多く含み、水分が減ってくると皮膚体温を少し上げるので温かく感じます。冷感タイプは消炎鎮痛薬とメントールという成分が含まれ冷たさを感じさせます。

② **テープ剤**は肌色のテープタイプでフィットしやすく、はがれにくい・通気性が良くムレにくい・薄くて肌色に近いので目立ちにくい、パップ剤と比較すると肌荒れを起こしやすいなどの特徴があります。

水分を含まないので冷却能力はなく、慢性の症状に適しています。

◆使い分けのポイント◆

① **打撲・捻挫・運動後の筋肉痛など**

幹部がはれたり、熱を持ったりする急性の症状には「冷感タイプ」を使いましょう。保冷剤などで冷やすのも効果的です。

② **腰痛・肩こりなど**

疲労や血行不良が原因とみられる慢性の症状には「温感タイプ」・「テープ剤」を使いましょう。①の急性症状が治まった後の継続治療にも適しています。蒸しタオルなどで温めるのも効果的です。

③ **判断が難しい場合**

冷やすと気持ちがいいなら「冷感タイプ」を、逆にお風呂で温まったりしたとき気持ちがいいなら「温感タイプ」を使うようにしましょう。



◆貼るときの注意◆

冷感タイプ・テープ剤は、入浴後すぐに貼ると吸収がよくなり効果的です。逆に温感タイプはひりひりするので、入浴30分後以降に貼りましょう。また入浴1時間前にははがしましょう。



知って得する旬の野菜



春

菊

癌予防に働くカロテンと 造血に必要な鉄分を豊富に含む

地中海沿岸が原産地のアブラナ科。春に黄色の花を咲かせるのでこの名前がつきました。

栄養成分としての働き

ビタミンB群、C、カリウム、鉄などを多く含み、癌、貧血、高血圧などの予防に有効です。

細菌やウイルスに対する免疫力を高めるカロテンを豊富に含むので、風邪を予防し、ビタミンCとの相乗効果で肌を健やかにします。

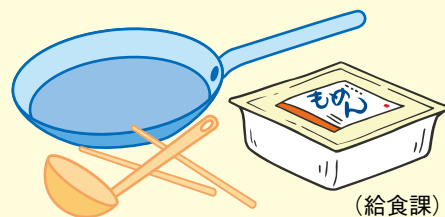
春菊の特有の香りは、 α -ピネン、ベンズアルデヒドなどの精油成分によるものです。これらの成分は、胃腸の働きを促進し、たんを切る作用があるといわれます。

濃い緑色はクロロフィルという色素で、血中コレステロールを下げる働きがあります。

調理のポイント

旬は11～3月で、冬に美味しくなる野菜です。

胡麻和え、白和えの様に、脂質の高い種実類や豆腐などと一緒にとると、カロテンの吸収が良くなります。



(給食課)

春菊を生で食べてみませんか？

葉

サラダ

【材 料 4人分】

春 菊……………1束
大 根……………150g
ごま油……………適量
ポテトチップス…適量

- ①春菊は葉と茎に分ける。葉は食べやすい長さに切る。大根は細切りにし、薄く味がつく程度に塩を振り、しばらく置く。
- ②①を混ぜ、塩を振り、味を調え器に盛る。
- ③ごま油をフライパンであつく熱し、②にまわしかける。
- ④ポテトチップスを砕いて、振りかける。



茎

茎の豚肉ロール

【材 料】

豚バラ肉スライス……100g
春菊の茎

- ①鍋に塩を入れ、茹でる
- ②お肉に塩・こしょうをし、内側に小麦粉を少し振る。
- ③茎1～2本ずつを②で巻く。
- ④③に小麦粉を振り、フライパンで焼く。
- ⑤器に盛り、生姜醤油、ポン酢などお好みで。

(レシピ：秘書広報課 手崎桂子)

交通のご案内



●京阪神より

【電車をご利用の方】

北近畿タンゴ鉄道峰山駅下車徒歩 15 分



【お車をご利用の方】

京都・大阪より約 2 時間 30 分

舞鶴若狭自動車道「綾部 JCT」

⇒京都縦貫自動車道「宮津天野立 I C」

⇒国道 176 号線⇒国道 312 号線經由

(「宮津天橋立 I C」より約 35 分)

糖尿病教室

締め切り：4 / 6

日時：平成 22 年 4 月 13 日(火) / 16 日(金)

受付 / 13:45 ~ 教室 / 14:00 ~ 15:00

場所：ふたばホール

テーマ：『**外食で気をつけたい事**』

対象者：糖尿病の方

参加費：240 円 (一割負担の方は 80 円)

筆記用具、電卓等はこちらで用意します。

※この教室は皆さんが知りたいと思われる事をテーマに選んでいます。少人数で楽しく行っていますので、是非御参加いただき、日頃の悩み等のご意見もお聞かせ下さい。

★参加を希望される方は**内科外来**の看護師に声をかけて下さい。

担当：管理栄養士 田中、関

編集後記

いよいよ、3 月から新しい病棟が始動します。

今号では、新病棟の 1 階から 4 階までを見取り図と写真を用いてご案内致しました。また、2 月 27 日の竣工式の模様も掲載しています。次号からも、当院の様々な情報をお知らせしたいと思います。

さて、ようやく始まりの季節「春」がやってきました。今、丹後中央病院は、まさに春のような活気にあふれています。

そのエネルギーは、萌え始める新芽のごとく力強く若々しいものです。私自身、この 3 月が新たなスタートラインなのだと、身の引き締まる思いが致します。

本誌「陽だまり」は、院外広報誌として年数回発行されます。皆様方に親しまれ、信頼され、愛される広報誌を目指し、頑張りしたいと思います。

今後も、私たち秘書広報課が担当いたしますので、ご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

平成 22 年 3 月吉日 秘書広報課 宮崎 奈緒美